

第 1 回大阪市障がい者施策推進協議会 発達障がい者支援部会 会議録

日時：平成 25 年 9 月 20 日（金）午前 10 時～12 時

場所：市役所屋上階共通会議室

（開会）

（出海障がい者施策部長兼発達障がい者支援室長 あいさつ）

（委員紹介、事務局紹介、資料確認）

【発達障がい者支援部会の設置について】

- ・ 資料 1 により設置趣旨説明

【議題 1 部会長、職務代理者の選出について】

- ・ 互選により里見委員が部会長に就任
- ・ 職務代理者の指名：里見部会長より白江委員を職務代理者に指名、了承される

【議題 2 発達障がい者支援センター事業実施状況報告について】

（間宮発達障がい者支援マネージャー）

資料 3-1 3-2 により実施状況報告

（質疑・意見など）

（岩崎委員）

発達障がいであるとの診断を本人や家族がどのように受けとめるか、専門的な立場からご意見を伺いたい。

（以倉委員）

診断は時には成人の当事者にとっては、精神的なスティグマになったり、就労や社会参加への意欲を削ぐことに成りかねないということもあり、告知の問題は慎重に考えておかないといけない。

（福田委員）

発達障がい者支援センター事業実施報告の相談主訴別の件数の中で療育については 0 件になっている。大阪市では療育相談をしているが相談がなくなっているのか。

（井上委員）

療育については療育施設での療育内容の相談になる。

相談内容が増えているのは家庭生活、家庭療育が圧倒的に多い。

（里見部会長）

全体に相談件数は減少傾向にあるが、これは悪いことではなく様々なところで相談・支援ができるようになってきているということである。

（岩崎委員）

私立保育所への巡回相談の対象者はどうか。

また、私立だけというのは公立には他に支援があるということか。

(河合市立心身障がい者リハビリテーションセンター相談課長兼発達障がい者支援担当課長)

巡回相談は、関係部局で役割分担して進められている。

公立保育所はこども青少年局保育運営課で発達障がいに関わらず、障がいのある子どもを支援する制度があり、エルムおおさかは私立保育園へのバックアップ体制を取っている。

また、公立幼稚園は、教育委員会事務局が学校園の巡回指導の体制を取っており、私立幼稚園は大阪府に加え、本市独自に支援するような施策がとられ、それぞれバックアップしている。

【議題3 発達障がい者就業支援コーディネーター事業実施状況報告について】

(山田発達障がい者就業支援コーディネーター(以下c o))

資料4により実施状況報告

(質疑・意見など)

(岩崎委員)

就労支援をする環境づくりが浸透していきにくいとあるが、もう少し具体的に教えていただきたい。

(山田c o)

少しでも利用者の不安を軽減するため、私達が一緒に見学に行ったり、訓練機関に利用者の方の状況を説明させてもらったりするが、相談者が増えると全部一緒に行けない状況が昨年度はあった。1名増え手厚い支援ができるようになったとは感じている。

また、ご自身にあった訓練を私達が同行することで色々見学ができたり体験ができたりする。発達障がいの方は環境や組み合わせの問題も大きいと思う。

(里見部会長)

当事者の方が自分で組み合わせたりすることが困難ということか。

(山田c o)

そこに支援が必要だということです。

(岩崎委員)

受け側の就労移行支援事業所との連携の問題か。

(山田c o)

就労移行事業所は訓練の体験期間を設けているのが多いが、当事者や家族は体験期間があり色々比較して良いということを知らなかつたりするため、家族と本人が体験に行くと、ここに行かねばならないと思ってしまう。

(岩崎委員)

受け皿が多様であり、利用者側に情報が提供され選択肢があると、迷いが少なく済む。各事業所が訓練等の枠を作っている所が多ければ良いが少ないのか。

(井上委員)

就労継続支援事業所A型が増えており、各事業所が得意分野と不得意分野がある。それをコーディネーターが情報を集約し、利用者の特性にあったものを探すような仕事をしている。

(里見部会長)

当事者が断っても良いというところを明確にすれば良い。体験後に貴方の判断で決めましょうと明確化してあげないと、「ねばならない」ということになってしまう。そこは今後の課題。

今後の評価検証について、当事者と家族へのアンケート調査を行うことになっているが、更に客観的な評価にするには、受け入れて頂いた企業が、実際に発達障がいの方を受け入れた時にどんな課題があり、どのように対処していったか、等々について情報整理をしていくことが、もっと受入先を広げていく時にこういうことが課題にはなるが、こうすればいいという具体案を提示できるのではないかと思う。是非検証の中に企業の評価というのをに入れて頂きたい。

(福田委員)

休職者の復帰支援について、もし復帰されるのであれば別の企業に行くのか、今行っている企業の産業医に協力してもらい支援してもらえるような状況をこれから作っていただけるのかどうか。

(里見部会長)

休職中の企業であれば、同じ企業に復職ということですね。

その時に付帯するサービス、産業医が関わる必要であるという意見ですか。

(山田 c o)

復帰支援は、産業医や会社の人事の方、主治医、ご家族一緒に復帰に向け考えている。昨年度1名復帰をしたが、休む前と同じ部署に復帰し今も継続されている。同じ部署に復帰を希望し準備をするが、不向きな職場の場合があるので、体験で職場に行かせてもらい振り返りをしている。

【議題4 再構築事業報告について】

(河合課長)

「発達障がい者支援施策の課題認識と方向性」、「発達障がい者支援センター（エルムおおさか）による地域サポート体制の強化」、「専門療育機関の設置」について説明。

(青木こども青少年局管理課保健副主幹)

「乳幼児発達相談体制の強化」について説明。

(島田教育委員会事務局特別支援教育担当課長)

「ユニバーサルサポート事業」、「巡回相談体制の強化」、「発達障がいサポート事業」について説明。

(津村教育センター主任指導主事兼こども相談センター係長)

「発達障がい研修支援」について説明

(松田こども青少年局こども家庭課長)

「児童養護施設等での発達障がい児自立支援事業」について説明

(質疑・意見など)

(田中委員)

多くの事業があるのはいいが、事業と当事者をどう繋ぐかということが課題だと思う。実際にこういう事業でどう繋げていくとしているのか。広報はどうしているのか。

(河合課長)

医療機関には、本市の関係医療機関のほか、府の病院・診療所にも周知し、大阪自閉症研究会などへも周知している。保護者等への周知は、区役所等の関係機関、相談機関とかに知って頂くことが一番で、事業立上げ時に周知に努め、保育所や幼稚園にも知らせている。

ホームページにも常時出している。

(田中委員)

保護者がホームページ等をチェックしない限りは、病院で説明をして初めて知ることが少なくないので、広報の行い方について考えて頂きたい。

(岩崎委員)

保健福祉センターで臨床心理士が配置されたことは非常にいいことだと思う。一人の臨床心理士方が地域のことを把握し、できるだけ保育所幼稚園と目に見える関係になるといい支援に繋がりがり保護者も安心だと思う。

(里見部会長)

乳幼児健康診査、発達相談の状況のところで、保育所への周知はどのようにされているのか。心理士も配置されてまだまだ熟練した方ではないと思うが研修はどうしているか

(青木保健副主幹)

4・5歳児発達障がい相談事業は保育所にはかなり周知はされており、公立保育所からの相談はかなりの割合を占めている。積極的な周知はなかなかできていないが、ホームページであるとか一般的な周知は色々な形で区において周知はされている。研修については発達障がい者支援室から随時関係する研修について各区に周知し参加している。

(白江委員)

基幹相談支援センターや各区相談支援センターも、研修対象としても位置づけて頂いて専門性を身につけていくという対応ができたらいと思う。

大阪市における主な相談先で、相談支援センターも相談機関としても位置づけを明確にさせていただく方がいいのではないかな。

(以倉委員)

家庭内、社会内で行動障がいにより深刻化してくる中・高生に対する支援が薄いような気がする。今後中高生に関する支援について拡大を考えているのかどうか教えていただきたい。

(島田課長)

教育委員会が行っている巡回相談は発達障がいを中心に各学校園の要請に応え幼稚園から高校まで巡回を行っている。それ以外にも教員に対し研修も行っており、近年中高校の教員も発達障がいに関する意識もかなり高くなっている。高校においても活用するように取り組みをしていきたい。引きこもり、うつや家庭内暴力に対しては課題ではあるが、現在は発達障がいに特化した形で取り組んでいる状況です。

(里見部会長)

発達障がいと合併という形になると思うが、その対策は確かに成人の相談も含めて、課題になってくる。

(以倉委員)

こころの健康センターで思春期相談事業がある。引きこもり相談も行っているが、発達障がい疑われる思春期の子供達もおり、そこに至るまでに精神保健と教育委員会と連携しながら介入できないかと考えて質問をさせてもらった。

(河合課長)

不登校引きこもりという課題については、発達障がいと関連のある事例もあるので、既存の不登校引きこもりに関する組織とどう連携ができるかということを探ってみたい。

(福田委員)

療育で保護者研修があるが、すべて同じ内容か。

(河合課長)

研修内容は、各法人が独自に企画しており同一メニューではない。ただ基本ベースの考え方は一緒。

(溝上委員)

巡回相談や基礎研修で中学校の受講が少ないので充実していただけたらと思う。

(里見部会長)

各事業の連携がまだまだ課題だと思う。今日たくさんの委員の方、それから役所の方がいるのでそれが繋がっていくことを期待したい。

【議題5「その他」】

(河合課長)

区役所における発達障がい者支援の状況について説明

特に意見・質問なし

閉会